

## 目 次

第0章	本研究の構成	1
第1章	交通事故をめぐる事実関係の認定と責任判断上の課題	2
1-1	交通事故の発生状況	2
1-2	交通事故へのアプローチ	3
1-3	交通事故に関して生じる責任	4
1-3-1	概説	4
1-3-2	刑事責任について	4
1-3-3	民事責任について	6
1-3-4	行政上の責任について	8
1-4	民事責任の特徴	10
1-5	適切な民事責任の判断の必要性和心理学の研究の活用	11
1-6	証言の信用性の判断と事実認定	12
1-6-1	総説	12
1-6-2	予測的な証言の真偽判定方法	12
1-6-3	特定の証言の信用性を事後的に判定する方法（供述分析）	14
1-7	「帰属」の研究と責任判断	18
1-7-1	主要な帰属理論	18
1-7-2	帰属理論の発展と帰属判断のバイアス	21
1-7-3	新しい帰属研究	23
1-8	帰属理論の法律上の責任判断への応用	26
1-8-1	責任の帰属に関する先行研究	26
1-8-2	「責任」の概念	26
1-8-3	責任判断の流れ	27
1-8-4	帰属研究の責任概念と刑法上の責任	28
1-8-5	帰属研究の責任概念と民法上の損害賠償責任	29
1-8-6	過失相殺について	30
1-9	本研究の目的	33
第2章	簡易な事実関係判定指標の開発	35
2-1	本章の目的	35
2-2	本研究の手順	35
2-3	チェックリストの作成	37
2-3-1	概説	37
2-3-2	作成する事例の選定	38
2-3-3	証拠の信用性に影響する要因の抽出	40
2-3-4	要因の分類と判断方法の整理	42

2-4	チェックリストの検証	44
2-4-1	検証に用いる事例の選定	44
2-4-2	検証過程の図式的な記述の必要性と方法	44
2-4-3	チェックリストによる事実関係の判定	56
2-4-4	判決の判断方法の明確化	63
2-4-5	チェックリストの有効性	66
2-4-6	チェックリストで抽出できなかった要因とチェックリストの改訂	68
2-5	まとめと課題	74
第3章	過失割合判断における認定基準と大学生の責任判断との相違	76
3-1	本章の目的	76
3-2	調査方法	76
3-2-1	調査対象事例	76
3-2-2	調査方法	79
3-3	結果	80
3-3-1	認定基準と大学生の回答の比較	80
3-3-2	同種類の事例の比較	82
3-3-3	認定基準の改訂があった事例について	83
3-3-4	免許の有無および性別	85
3-3-5	事故の当事者（歩行者、車）の違い	85
3-3-6	回答差と回答のばらつき	86
3-4	考察	87
3-4-1	基準作成の基礎となった要素と結果のまとめ	87
3-4-2	大学生の責任判断過程とそれに影響を与える要素	90
3-4-3	免許および性別の影響	92
3-5	総合考察	93
第4章	過失割合判断における当事者・観察者の立場による相違	95
4-1	本章の目的	95
4-2	調査方法	96
4-2-1	調査手順	96
4-3	結果	100
4-3-1	立場の違いと責任判断の違い	100
4-3-2	各立場からの責任判断と基準との比較	100
4-4	考察	104
4-4-1	基準策定の基礎となった要素と結果のまとめ	104
4-4-2	調査対象者の判断の仕方と判断に影響した要因の検討	106
4-5	全体考察	110

第5章 過失割合判断における法科大学院生と大学生の相違	113
5-1 本章の目的	113
5-2 調査方法	114
5-3 結果	115
5-3-1 法科大学院生と大学生の判断の比較	116
5-3-2 法科大学院生の回答と基準・裁判所の判断の差	117
5-3-3 法科大学院生の回答における同じ類型の事故同士の比較	118
5-3-4 免許の有無、性別の影響	119
5-3-5 重回帰分析	119
5-3-6 回答差と回答のばらつき ( <i>SD</i> )	120
5-4 考察	121
5-4-1 各事例の判断要素の分析結果のまとめ	121
5-4-2 法科大学院生の責任判断過程とそれに影響を与える要素	123
5-5 総合考察	126
第6章 総合論議	128
6-1 調査のまとめ	128
6-2 基本的な責任判断の流れ	128
6-3 事実関係の判定指標の作成	129
6-4 責任判断の機序と影響を与える要素	131
6-4-1 一般人の責任判断の機序	131
6-4-2 判断に影響を与える要素	133
6-4-3 判断機序と要素のまとめ	137
6-5 基準の「判断基準」としての機能について	139
6-6 本研究結果の活用	140
6-7 今後の課題	143
引用文献	144
謝辞	154